

事業番号

2023 - 文科 - 新23 - 0354

令和5年度行政事業レビューシート			( 文部科学省 )				
事業名	市民参加による海洋総合知創出手法構築プロジェクト		担当部局	研究開発局	作成責任者		
事業開始年度	令和5年度	事業終了(予定)年度	令和10年度	担当課室	海洋地球課	山之内裕哉	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	海洋基本法第4条、第28条		関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション計画(令和3年3月閣議決定) 統合イノベーション戦略2022(令和4年6月3日閣議決定)			
政策	未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応		主要経費	科学技術振興費			
施策	9-5 国家戦略上重要な基幹技術の推進						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_9-5.pdf						
事業の目的(5行程度以内)	海洋による市民参加型研究を推進し、総合知を創出することで専門知のみでは解決が困難な諸課題の解決に貢献する。						
現状・課題(5行程度以内)	「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」において、持続的な海洋利用に当たり、研究者と市民などの多様なステークホルダーの知を統合させた科学的成果の創出が必要とされている。他方で、海には、漁業者、観光業・マリンスポーツ業者、商船会社など多様なステークホルダーの専門知が混在しており、各々のステークホルダーのニーズは多様であり利害は一致しないものも多いため研究課題の設定も容易でない。						
事業概要(5行程度以内)	研究者と市民が連携した市民参加型研究を実施し総合知の創出を図る。また、市民参加型研究を進めていくうえでのノウハウを纏めた手順書の作成やシンポジウムの開催などの当該研究が全国的な横展開されるための取組を実施する。						
事業概要URL	-						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	35.4	35.4
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	35.4	35.4
		執行額(G)	-	-	-	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	-	-	-	-	-
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	-	-	-	-	-		
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	研究開発推進費					
	(目)	科学技術試験研究委託費	35	35			
	(項)	研究開発推進費					
	(目)	非常勤職員手当	0	0			
		庁費	0	0			
		委員等旅費	0	0			
		職員旅費	0	0			
		諸謝金	0	0			
	その他	0	0				
	計(A)	35.4	35.4				

活動内容① (アクティビティ)		市民参加型研究により総合知創出を目指す。また、全国的な横展開に向けた総合知創出にかかる市民参加型研究の手順書作成等を行う。 ひいては、海洋科学に携わる市民の増加を図る。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		本事業の市民参加型研究により得られた学術的成果	研究者が市民とともに執筆した論文や出版物、発表などの数	活動実績	本	-	-	-	-	-
				当初見込み	本	-	-	-	1	1
↓										
成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		研究者と市民がともに研究に取り組み、論文・出版物などを執筆することで市民の海洋科学に対する関心が高まる。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		海洋科学に関心を持つ者の増加	「市民参加による海洋総合知創出手法構築プロジェクト」において開催されたシンポジウム・WS等への参加者数	成果実績	人	-	-	-	-	
				目標値	人	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		成果実績の根拠: 本事業で提出を義務付けている報告書による。 目標値の根拠: 本事業において令和5年度に開催するシンポジウム・WS等を実施したのち、その実績を基に設定する。								
↓										
成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)		シンポジウム・WS等への参加者数の増加から市民参加型研究に携わる市民の数が増大し、市民参加型研究の増加につながる。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 9 年度	
		海洋分野における市民参加型研究の増加	中核推進機関が連携する市民参加型研究の数	成果実績	件	-	-	-	-	
				目標値	件	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		成果実績の根拠: 本事業で提出を義務付けている報告書による。 目標値の根拠: 本事業において令和5年度に開催するシンポジウム・WS等を実施したのち、その実績を基に設定する。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	-								
	URL	-								
	該当箇所	-								

事業所管部局による点検・改善	
点検結果	<p>本事業は利害関係を伴うステークホルダーが多数、存在している海洋分野において市民参加型研究による総合知創出を国の事業として実施し、当該研究の手法を明確化することを目的としている。総合知創出するための市民参加型研究を行うことは研究者や閣議決定文書、国連機関からも重要とされていることから必要性は認められる。なお、事業の実施に当たっては公募を行い、外部評価委員会による審査を経て、競争性を確保しながら優れた提案について採択を行うことに加え、予算の執行に当たっては、委託契約前に支出の確認・指導を行うほか、額の確定調査を実施して全ての支出先・用途の把握を行う予定となっており、事業の効率性が担保されるものと認められる。</p>
改善の方向性	<p>本事業の実施に当たっては、毎年度、報告書等によって進捗状況・取組実績などを把握し、事業内容の改善を図ることで、事業の効率的な実施に努める。</p>
外部有識者の所見	
外部有識者による点検対象外	
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見	
	<p>本事業は、令和5年度に開始した事業のため、アウトプット・アウトカムで設定した指標に基づく活動実績を確認するなどして事業の実施状況を確認しつつ、引き続き事業の着実な実施及び適切な予算執行に努めること。</p>
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況	
現状通り	-
過去に受けた指摘事項と対応状況	公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)における取りまとめ
	上記への対応状況
	その他の指摘事項
	上記への対応状況
	備考
	関連する過去のレビューシートの実行番号
平成23年度	
平成24年度	
平成25年度	
平成26年度	
平成27年度	
平成28年度	
平成29年度	
平成30年度	
令和元年度	
令和2年度	
令和3年度	
令和4年度	2022 文科 新23 0017

文部科学省  
<35百万円>

委員等旅費、職員旅費0.4百万円を含む。

A. 大学、国立研究開発法人等  
【中核推進機関】研究開発課題①  
<15百万円>

B~G. 大学、国立研究開発法人等  
【エリア研究実施チーム】  
研究開発課題②、③  
<10百万円>

研究者と市民(研究者以外の多様なステークホルダーをいう。以下、同じ)が連携した市民参加型研究を実施し総合知の創出を図る。また、市民参加型研究を進めていくうえでのノウハウを纏めた手順書の作成やシンポジウムの開催などの当該研究が全国的な横展開されるための取組を実施する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が  
何を行っているかにつ  
いて補足する)  
(単位:百万円)